※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A３用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式２】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート

※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、＜award@ml.nits.go.jp＞宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、３日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。

※事務局記入欄

受理№：A-2

【学校名・氏名】 根室市立花咲小学校　　阿部　俊介

【修了研修名】　平成３０年　第３回　中堅教員研修

【応募部門】

研修成果活用

【活動名】　先生方も自己理解・他者理解　～「Hanasaki Times」発行～

解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？

本校は職員数２６名（事務職員等含む）、児童数１９０名の中規模の学校である。職員の年齢構成は２０～３０代が半数以上を占め、ベテランが少ない状況である。経験年数が少ない職員が多いため、日々の授業改善が緊要な課題である。また、日々の業務や授業準備に追われ、職員同士のコミュニケーションを図る余裕がないため、その改善を図ることも課題の一つである。

【課題①】
若手教員の授業改善

【課題②】
教員同士のコミュニケーション（自己理解・他者理解）

目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？

【目標①】 若手教員の授業改善
【方針①】 学習指導要領改訂など、昨今の教育改革について分かりやすくまとめ、メンターチーム研修等を通して、若手教員の意識改革と授業力向上をはかる。

【目標②】 教員同士のコミュニケーションを図る（自己理解と他者理解を進める）。
【方針②】 教員にインタビューを行い、その教員の教育観、夢、目標などを紙面におこし、職員全体に広める。職員間の垣根を低くして、コミュニケーションの場を広げていく。

活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。

課題解決のため、以下の方法で教員が活用できる資料「Hanasaki Times」を発刊した。

【第１次：記事の内容・企画の決定、全体周知】
・記事の内容を以下のように設定した。
　特集１：学習指導要領改訂などの教育改革に係る内容。
　　各学級で行われている優れた実践を紹介。
　連載１：「花咲ベストメンバー」 職員へのインタビュー（教師として大切にしていること、一番嬉しかったこと、本校でやってみたいことなど、写真付きで掲載）。
　連載２：「おすすめの一冊」　（教育系の本や、育児書、ビジネス書など、是非職員に読んでもらいたい本を紹介するコーナー）
　コラム　：時事ネタや校外の研修等で話題になったことなどを掲載。（不定期）
・職員会議にて、「Hanasaki Times」を発行することを周知した。そこで、インタビューを行うこと、教室を回って写真を撮ることなどの了承を得た。

【第２次：取材・資料収集】
・特集１のテーマに関わる資料を収集した。
　資料：平成３０年度第３回中堅教員研修の資料
　　文部科学省 HP よりダウンロード　　など
・連載１「花咲ベストメンバー」の取材を行った。
　職員へのアンケートやインタビューによる記事。授業中の写真や、職員室での写真などを撮影。
・連載２「おすすめの１冊」の本を選定した。
　過去に読んだ本、職員のおすすめの本について情報収集。その中から、職員に紹介したい本を選定。
・コラムのネタを収集した。
　校外研修先での出来事。研修資料等からの抜粋。

【第３次：記事作成、割付】
・「表紙」：その月にあった出来事から、写真を選び表紙に採用した。
・「特集１」：資料をそのまま掲載するのではなく、分かりやすく噛み砕いて説明するようにする。本校の研究主題との関りを考慮に入れ、活用できるように工夫した。
・「連載１」：雑誌のグラビアを意識して割付を行った。”その職員の良さが伝わるように“という考えを大切にして記事を作成した。
・「連載２」：本の名前や著者だけではなく、本を探しやすいように ISBN なども記載した。また、その本を読むことのメリットや、読んだ後の感想を書くなど、おすすめの文章を添えた。
・「コラム」　：難しい言葉や専門用語を少なくし、「私」の一人称で書くことで、読み手に親近感を抱かせることを心がけた。

【第４次：印刷、発行】
・両面カラー、A４サイズ６ページを印刷、帳合し、職員へ配布。記事の内容を元に研修も行った。

※「Hanasaki Times」第１号

表紙

特集「主体的・対話的で深い学び」とは　「花咲ベストメンバー」「おすすめの一冊」

活動の成果：　※それによって、どんな成果が得られましたか？

１　特集「主体的・対話的で深い学び」「国語の授業の作り方」を活用して、一単位時間だけではなく、単元全体を見通した計画を重視するようになった。研修内容とリンクさせることで、研修も深まりを見せた。

２　「花咲ベストメンバー」の記事を元に、職員室内での会話のきっかけができた。また、普段あまり話さない職員と互いの教育観等について話をするようになった。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

１　教務から出される「プリント」ではなく、「雑誌」を意識したデザインと割付を行った。特に「花咲ベストメンバー」の紙面構成は雑誌のグラビアを意識した。インタビューに応じてくれた職員には少しグレードの高い紙に印刷しプレゼントした。
２　教員は日々の授業準備などに時間が割かれ、教材研究以外の教育に関わる研修をする時間がとりにくい。そこを少しでも解消できるように、分かりやすい解説になるよう心がけ、要所を捉えてもらうことを意識した。本校の教員が、少しでも子どもと向き合う時間が増えることができるよう、必要な情報を提供していくよう努力している。